

コンフューザーRの設置をすみやかに！
「ふじの落花20日後頃」の薬剤散布は5月31日～6月1日頃!!
結実状況にあわせて、早めに摘果を!!!

I 概 要

コンフューザーRの設置がまだ終わっていない園地ではすみやかに設置する。

「ふじの落花20日後」の散布時期は、黒石、弘前、三戸で5月31日～6月1日頃である。

黒星病や黒点病などの重要な防除時期なので、基準散布量を守り、10日間隔で降雨前の散布を徹底する。

腐らん病に引き続き注意して観察し、見つけ次第適切に処置する。

結実の状況を確認した上で、品種別の標準的な着果程度を目安に仕上げ摘果を行う。

報道機関用提供資料	
担 当 課	農林水産部りんご果樹課
担 当 者	生産振興グループ GM 工藤 秀樹
電話番号	直通 017-734-9492 内線 5146
報 道 監	農林水産部 次長 栗林 豊 内線 4967

Ⅱ りんご生産情報

1 生育、作業の進み、病虫害の動き

(1) 生育ステージ

ふじの落花日は、黒石（りんご研究所）で平年並の5月16日、五戸（県南果樹部）で平年より1日早い5月18日であった。

○満開日

(月. 日)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	王 林	ふ じ
黒 石 (りんご研)	本 年	5. 10	5. 9	5. 7	5. 10
	平 年	5. 12	5. 11	5. 11	5. 12
	前 年	5. 1	4. 29	4. 29	5. 1
五 戸 (県南果樹部)	本 年	5. 10	5. 10	5. 9	5. 11
	平 年	5. 14	5. 13	5. 11	5. 13
	前 年	5. 2	5. 2	4. 30	5. 2
青森市浪岡北中野 (東青農林水産事務所)	本 年	5. 12	－	5. 9	5. 12
	平 年	5. 12	－	5. 10	5. 12
	前 年	5. 1	－	4. 29	5. 1
弘前市独狐 (中南農林水産事務所)	本 年	5. 7	5. 8	5. 5	5. 9
	平 年	5. 11	5. 10	5. 9	5. 12
	前 年	5. 2	5. 1	4. 30	5. 2
板柳町五幾形 (西北農林水産事務所)	本 年	5. 12	－	5. 9	5. 12
	平 年	5. 12	－	5. 11	5. 13
	前 年	5. 2	－	4. 30	5. 3
三戸町梅内 (三八農林水産事務所)	本 年	5. 4	－	－	5. 6
	平 年	5. 10	－	－	5. 10
	前 年	4. 28	－	－	4. 28

注) 満開日：頂芽花の70～80％開花したとき

2) 各農林水産事務所のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

○落花日

(月. 日)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	王 林	ふ じ
黒 石 (りんご研)	本 年	5. 16	5. 15	5. 14	5. 16
	平 年	5. 17	5. 16	5. 15	5. 16
	前 年	5. 6	5. 5	5. 4	5. 5
五 戸 (県南果樹部)	本 年	5. 18	5. 18	5. 16	5. 18
	平 年	5. 19	5. 19	5. 17	5. 19
	前 年	5. 10	5. 10	5. 3	5. 10
青森市浪岡北中野 (東青農林水産事務所)	本 年	5. 16	－	5. 14	5. 16
	平 年	5. 18	－	5. 14	5. 17
	前 年	5. 5	－	5. 3	5. 6
弘前市独狐 (中南農林水産事務所)	本 年	5. 15	5. 15	5. 12	5. 15
	平 年	5. 17	5. 16	5. 14	5. 17
	前 年	5. 8	5. 6	5. 4	5. 7
板柳町五幾形 (西北農林水産事務所)	本 年	5. 16	－	5. 14	5. 17
	平 年	5. 17	－	5. 16	5. 18
	前 年	5. 8	－	5. 5	5. 9
三戸町梅内 (三八農林水産事務所)	本 年	5. 14	－	－	5. 14
	平 年	5. 16	－	－	5. 15
	前 年	5. 5	－	－	5. 5

注) 落花日：頂芽花の70～80%落花したとき

2) 各農林水産事務所のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

(2) 作業等の進み (5月19日現在)

王林やつがる等の一つ成り摘果が行われている。

(3) 病害虫の動き

(5月19日現在 りんご研究所)

黒星病	子のう胞子及び分生子の飛散継続中 感染危険度は農ナビ青森(https://www.nounavi-aomori.jp) に掲載中 殺菌剤無散布の県予察ほでの新梢葉発病葉率 本年：19.2%、平年：6.2% (ふじ、5月20日)
腐らん病	病斑の伸展、胞子の飛散ともに継続中
うどんこ病	分生子の飛散継続中
モニリア病	実腐れ初発 (本年：5月19日、平年：5月19日)
ミダレカクモンハマキ	越冬卵からのふ化終了、幼虫が葉を加害中 (ふ化終息 本年：5月12日、平年：5月10日)
リンゴハダニ	越冬卵からのふ化終息し、幼虫～成虫が葉を加害中 (ふ化終息 本年：5月16日、平年：5月12日)
クワコナカイガラムシ	まもなく越冬世代幼虫が移動開始 (移動初発 平年：5月17日)
ナシヒメシンクイ	越冬世代成虫の羽化継続中

2 作業の重点

(1) 交信攪乱剤の設置

コンフューザーRの設置がまだ終わっていない園地ではすみやかに設置する。

ディスペンサーの設置点を多く取ることが重要なため、園地全体に均一に取り付け、まとめて1か所に取り付けることはしない。

園地の周辺部は性フェロモン濃度が低下しやすいため、多めに取り付ける。また、性フェロモンは空気よりも重いため、園地に傾斜がある場合には傾斜の上部に多めに取り付ける。

雪害で樹が失われた場合でも、面積当たりの設置本数を減らすことなく、基準の使用量を守る(10a当たり100本)。

コンフューザーRの具体的な設置方法については、農ナビ青森に掲載している。

(<https://www.nounavi-aomori.jp/farmer/archives/8495>)



交信攪乱剤「コンフューザーR」

薬剤名	使用量	適用病害虫
コンフューザーR	100本／10a	モモシンクイガ、ナシヒメシンクイ、リンゴコカクモンハマキ、ミダレカクモンハマキ、リンゴモンハマキ

(参考) 栽植距離別の1樹当たりコンフューザーRの設置本数の目安

栽植距離	10a当たり 栽植樹数	1樹に設置する コンフューザーRの本数
8×8m (普通樹)	16樹	6.25本 (1樹に6本設置)
4×2m (わい化)	125樹	0.8本 (5樹に4本設置)
3.5×1m (高密植)	286樹	0.35本 (3樹に1本設置)

(2) 「ふじの落花20日後頃」の薬剤散布

「ふじの落花20日後頃」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で5月31日～6月1日頃に実施する。地域や天候によっては散布時期が異なるので、前回の散布日や気象情報を参考にする。また、黒星病や黒点病などの重要な防除時期なので、基準散布量を守り、10日間隔で降雨前の散布を徹底する。

うどんこ病の発生が多い園地では、コナケン顆粒水和剤4,000倍、又はカッシーニフロアブル2,500倍も使用する。

ナシヒメシンクイの発生が多い園地では、有効な薬剤を使用する。

「ふじの落花20日後頃」

地域	散布時期	基準薬剤	散布量/10a
黒石 弘前 三戸	5月31日～ 6月1日頃	炭酸カルシウム水和剤 100倍 デランフロアブル 1,500倍 又はチウラム剤 500倍 〔チオノックフロアブル〕 〔トレノックスフロアブル〕 又はマンゼブ剤 600倍 〔ジマンダイセン水和剤〕 〔ペンコゼブ水和剤〕	420ℓ

(3) 摘果

結実を確認した上で、品種別の標準的な着果程度を目安に、仕上げ摘果を行う。さびなどの障害がない果実を見極め、ふじでは落花25日後頃までに終わるようにする。

結実量の多い樹から始め、葉が多く付いた果そうになった果実で、つる（果柄）が太く長く、肥大が良好で形の良いものを残す。枝の下面に成った果実や、逆さ実、果台が長い果実（ふじではおよそ2cm以上）はできるだけ摘み取る。

なお、霜害があった園地で摘果を行う際は、被害がごく軽微（果柄の傷など）

であれば側果ではなく中心果を残す。また、不受精花（カラマツ）により、標準着果量が中心果で確保できない場合は、側果の中から形質の良いものを残す。結実量が少ない場合は、樹勢調節のために発育や果形の悪い果実でも残すようにする。

品種別の標準的な着果程度

品 種	摘果の強さ (残す果実)
紅玉	3 頂芽に 1 果
つがる・ジョナゴールド	3.5 頂芽に 1 果
ふじ・王林・早生ふじ・トキ・シナノゴールド・きおう・金星・シナノスイート・未希ライフ・ぐんま名月・さんさ・星の金貨・千雪・夏緑・恋空・祝・花祝・紅はつみ・秋陽・はるか	4 頂芽に 1 果
北斗	4.5 頂芽に 1 果
陸奥・世界一	5 頂芽に 1 果

結実量が多く摘果が遅れそうな園地では、積極的に摘果剤を使用する。

展着剤を加用したミクロデナボン水和剤85の1,200倍を使用し、果実に薬液が十分かかるように、10 a 当たり3500～5000を散布する。

ふじ、王林、早生ふじ、トキ、シナノスイートでは「満開後2週間頃」（ふじでは中心果の横径10mm位の時に散布）、紅玉では「満開後3週間頃」（紅玉では中心果の横径16mm位の時に散布）の1回散布とする。

つがる、秋陽、ジョナゴールド、世界一、千雪など早期落果の多い品種や、紅はつみ、もりのかがやき、ぐんま名月など落ちすぎる品種にはかからないように注意する。

本剤散布による落果は、散布10日後頃から始まり、以後10～14日間継続する。ただし、天候の影響によっては効果の発現が遅れたり、不十分な場合もあるので仕上げ摘果は遅れないようにする。

(4) マメコバチの管理

マメコバチ活動終了後の巣箱は、天敵類が侵入できないように農業用不織布などで被覆する。

(5) 腐らん病対策

近年発生が多いことから、引き続き注意する。

枝腐らんは、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

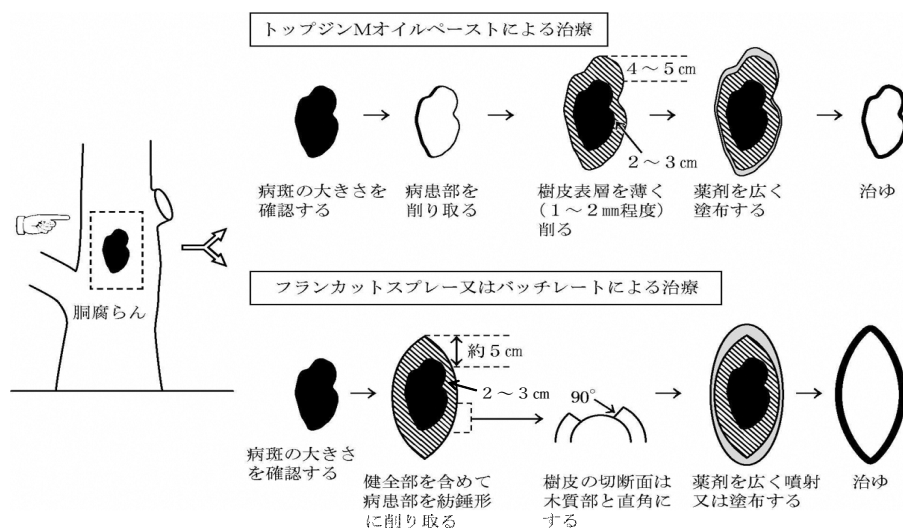
胴腐らんは、再発病斑を含め見つけ次第、次のいずれかの処置を行う。

ア トップジンMオイルペースト、フランカッスプレー又はバッチレートを
用いる場合は、下図のとおり薬剤ごとに適切な方法で処置を行う。

イ 泥巻きを行う場合は、水を加えて団子状にこねた泥を病斑部よりも5～6 cm
広めに、3～5 cmの厚さに貼り付ける。さらにその上をビニール又はポリエチ
レンフィルムなどで被覆し、内部の泥の乾燥を防ぐようにして約1年間そのま
まにしておく。病斑部を軽く削り取ってから泥巻きを行うと一層効果的である。

なお、火山灰土壌を使用する場合は、容積比で土が9に対してベントナイト
(土壌改良資材の一種) 1を加えてこねると粘着性が増し、泥巻き作業の効率
が良くなる。泥を作るには、土とベントナイトをよく混ぜてから水を入れて練
る。この際、ベントナイトは量が多すぎると樹皮が腐敗し、治ゆ効果も低下す
るので、加える量を誤らないようにする。

ウ 胴腐らの発病が著しい樹は、伝染源になるので積極的に伐採する。



削り取り法による胴腐れ治療の作業手順

なお、処置方法については、青森県産業技術センターのYoutube公式チャンネル
に掲載している。(https://www.youtube.com/@aitcofficial/videos)



二次元コード1
：トップジンM
オイルペースト



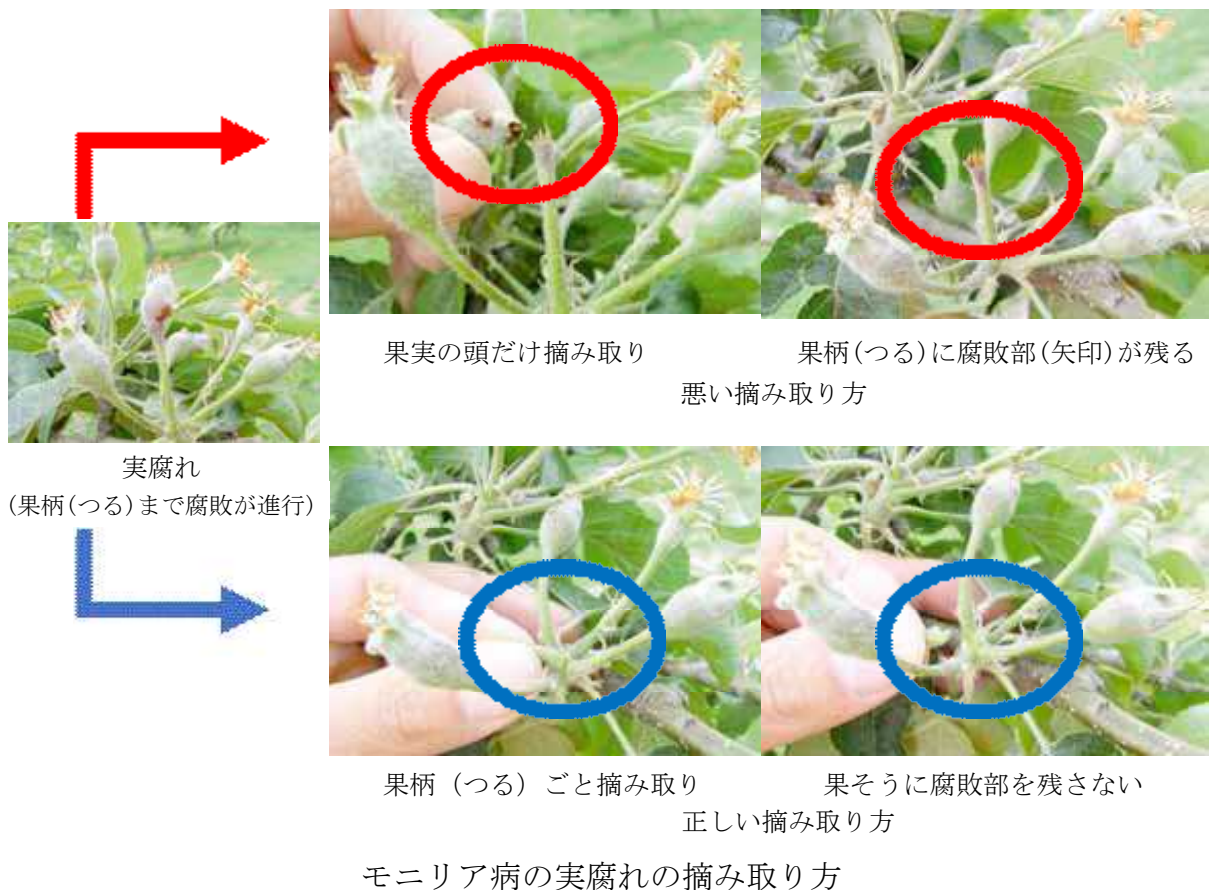
二次元コード2
：バッチレート



二次元コード3
：泥巻き法

(6) モニリア病対策

実腐れ、株腐れは、見つけ次第摘み取り、適切に処分する。



(7) 黒星病対策

「ふじの展葉1週間後頃」から「ふじの落花20日後頃」までは防除上最も重要な時期なので、薬剤散布は10日間隔を遵守し、散布ムラができないように基準量を丁寧に散布する。降雨とともに胞子が飛散するので、散布予定日に降雨が見込まれる場合は、事前散布に徹する。発病葉・発病果は伝染源となるので、見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(8) 輪紋病対策

枝幹上のいぼ皮病斑が伝染源となるので、削り取ってトップジンMペーストを塗る。削り取りができない細い枝は、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

(9) うどんこ病対策

伝染源の密度を下げるため、白い粉状の分生子に覆われた被害花そう・葉そうは、見つけ次第、枝ごと摘み取り、適切に処分する。

(10) ふじ・早生ふじのつる割れ軽減対策（ヒオモン水溶剤の利用方法）

例年、発生が多い園地や雪害により枝の欠損が多い園地では、ヒオモン水溶剤3,000倍を満開20～30日後に散布することで発生を軽減できる。使用に当たっては次のことに留意する。

- ア 単用散布とする。
- イ 散布後に葉がしおれる症状を示すが、1週間後頃にはほぼ回復する。
- ウ 高温・乾燥時の散布は避ける。新梢先端葉及び樹冠内の果そう葉の黄変落葉や頂芽の欠落が発生した事例がある。
- エ 極端に樹勢の弱い樹への散布はさける。
- オ 果実肥大が抑制される場合がある。
- カ 新梢の二次伸長を助長する場合がある。
- キ 摘果剤（ミクロデナポン水和剤85）を散布した後に本剤を使用した場合、摘果剤の効果が抑制される。

(11) ビターピット対策

例年よりも樹勢が強いとみられる場合や、幼果期（6月）の少雨、夏期の高温が予想される場合は、下表によりカルシウム剤を直接果実に付着するように散布する。

樹勢の弱い樹や高温時、あるいは干ばつ時には葉害発生（葉縁褐変）の恐れがあるので避ける。

カルシウム剤の散布方法

資材名	散布時期 (散布間隔)	資材形状	水100ℓ当たり 使用量 (倍数)	散布回数 (回)
スイカル	6月上旬～9月中旬 (10日以上)	粉状	330 g (300倍)	3～5
セルバイン	6月上旬～9月上旬 (10日以上)	粉状	250 g (400倍)	3～5
アグリメイト	6月上旬～9月中旬 (15日以上)	液状	200ml (500倍)	5

(12) 乾燥対策

若木や苗木は乾燥の影響を受けやすいので、園地の状況を把握し、干天日（降水量5mm未満）が2週間程度続いたら、1㎡当たり20ℓ程度をかん水する。

また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

(13) 苦土（マグネシウム）欠乏対策

欠乏症状が見られたら、葉面散布用の硫酸マグネシウムを1～2回散布する。散布間隔は7～10日あける。

苦土欠乏は土壌の酸性化が原因なので、あらかじめ土壌診断を行い、自園の状況を把握する。

（分析の依頼先：JA全農あおもり土壌分析センターか最寄りのJA等）

硫酸マグネシウムの使用方法

資材名	マグネシウム含有量	水1000当たり使用量（倍数）	
		5月末まで	6月以降
グリーントップ	16%	1,500 g（67倍）	2,000 g（50倍）
グリーントップ70	23%	1,000 g（100倍）	1,400 g（71倍）

3 その他一般作業

（１）草刈り （２）ひこばえ、徒長枝の切り取り

4 今後の作業（6月5日～6月25日）

（１）薬剤散布 （２）摘果 （３）袋かけ （４）草刈り
（５）ひこばえ、徒長枝の切り取り （６）腐らん病対策
（７）クワコナカイガラムシ対策 （８）追肥 （９）ビターピット対策

《 春の農作業安全運動展開中！（４～５月） 》

農作業安全のポイントを意識しながら、「最後にもう一度！安全確認」を心がけ、安全第一で農作業事故をなくしましょう。

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

農林水産省「農薬登録情報提供システム」 (<https://pesticide.maff.go.jp/>)

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 モモシクイガ等防除のため、交信攪乱剤の積極的な利用を！ 》

交信攪乱剤（コンフューザーR）は、

- ①温暖化でモモシクイガの被害が増えていること
- ②農薬の再評価制度に伴い、使用可能な殺虫剤が減少しつつあること
- ③薬剤抵抗性害虫が顕在化していること

などの理由により、令和6年からりんご病害虫防除暦の基準薬剤となりました。

ハマキムシ類やシンクイムシ類など複数の害虫への効果が期待できますので、ぜひ自園地へコンフューザーRを導入してください。

次回の発行は令和7年6月4日（水）の予定です。